838
297
116

国立国会図書館　　タイトル『本朝武家諸姓分脈系図』　請求記号 838-116

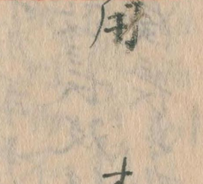
ガラス使用

藤原姓

山角

秦國相模

紋輪違



政長

山角紀伊守

生相州

住北條氏政小田原落城後蟄居山林

天正十九年辛卯七十五以井伊兵部少輔直政手

大神君賜食邑千二百石

八十二歳而歿法名宗覺

政定

山角刑部左衛門

天文廿一年壬子生相州

住北條氏政氏直小田原落城後蟄居

国立国会図書館　タイトル『本朝武家諸姓分脈系図』　請求記号 838-116

ガラス使用

天正十九年辛卯又同拜
大神君賜父姓高内賜分地二百石仕
台徳公為大御番高木主水正組
元和四年戊午十二月廿七歳二而正泉寺
号到岸院授菩提大禅定門

政勝　山角刑部右衛門　始又兵衛

天正元年癸酉生相九
天正十九年辛卯祖父同拜
大神君政長没後賜分知三百石後奉仕
台徳公慶長十九年甲寅大坂役毛崖為御留守為高木
主水正組而到大坂為甲奉行同廿年乙卯大坂再乱為
寄合鉄炮奉行凱旋後與小野次郎右衛門論大坂事
正勝究理而不悖　御前理強言御老中議之押
拝謁久寛永九年壬申七十七　御赦免賜本知三百石
同十年癸酉二為大御番組頭同廿三日加秩三百石
仁賜六百石正保三年丙戌告病辞為小普請
慶安二年己丑九廿二没年七十五葬三田正泉寺
号光閣院殿蒼溟大禅定門

勝重　山角市右衛門　母

慶長二年丁酉生江戸
同十三年戊申十一十五始拝

国立国会図書館　タイトル『本朝武家諸姓分脈系図』　請求記号 838-116
ガラス使用

台徳公同十八年受五為大御番高木主水正組
同二十年乙卯五六大坂役嘆勲手負聞宮庄五郎退出
然又遠慮中故追而可領拝謁也
元和八年壬戌十二廿八賜采俸百五十俵同九年癸亥五廿五
加五十俵九賜二百俵寛永十年癸酉二七並加二百石
合四百石正保三年丙戌十六為大御番組頭又跡
慶安二年己酉十二十四跡目六百石自領召納
寛文二年壬寅五十二告病辞為小普請
負事元年甲子十二十三改年号延宝
子大智院鏡誉道圓大信士

山角隆三右衛門

女子

女子

大御番
御書院番
権太左衛門秦重
天野彦兵衛正重妻

妙

寛永十四年丁丑生
承應三年甲午二廿五部屋住為
賜三百俵食事元年卒
藤五郎之明
元禄五年壬申 致年四十六

跡目御小性組戸田備後守組
御目見以上三百石以下

国立国会図書館　タイトル『本朝武家諸姓分脈系図』　請求記号 838-116
ガラス使用

女子　小傷助左衛門正朝妻

之明　山角藤兵衛　藤五郎

智　妻　大御番組頭　森　新次郎義明妻

生如戸
万治二年己亥七四新規為大御番戸田淡路守組場
二百俵宛文七年丁未二十八法
同八年戊申十二九五迁五十俵
元禄七年甲戌四五九為新御番組頭同年十二廿七加
二百俵合賜五百石宝永二年乙酉百二而告病辞為小普請

杉本周防守組与保三年戊戌八十七
号廊真院源空道山居士

政明　女

山角友之助　藤五郎

生如戸
元禄八年乙亥七廿五始　御目見
享保三年戊戌閏十九弥四五百石菊間縁御老中格久世
大和守傳之為小普請能勤出
御褒献銀為代同八年癸卯十二為大御番小幡伊中守
組同十八年癸酉七廿六致仕
号智生院廊誉悠山居士

杉本周防守組与保三年戊戌八十七
号廊真院源空道山居士

国立国会図書館　タイトル『本朝武家諸姓分脈系図』　請求記号 838-116
ガラス使用

山角多宮　藤五郎

女

室永元年甲申生江戸
享保十八年癸丑十月六歳同五百石菊間而御老中列座酒井
讃岐守傳之為小普請支配同年十二月進用御褒
献銀為代
元文五年庚申十二月廿日年三十七寿正泉寺
号圓成院實誉浄徹尊尼

山角友之助

實

室女

卒而左衛門

生江戸
元文五年庚申十二月三歳同五百石菊間而御老中列座
伊豆守傳之為小普請支配同年十二月六為大御番
同六年辛酉二月六為大御番組頭
寛政九年丁巳十一月六仍老辞賜金二枚
支配

享和元年辛酉十月五歳
子徳明院任蒼浪斎号

山角

某

女

元文元年丙辰十月六歳同寺
子明曜院釈蒼照童子

童形

女同

享保二十年乙卯十一月十二日歳同寺
号浄蓮智空尼

国立国会図書館　タイトル『本朝武家諸姓分脈系図』　請求記号 838-116

ガラス使用

女子
母

通樹
母

山角友之助

之昌
妻
妻母

山角元次郎

寛保四年甲子二十二天寿四
于二童女

宝暦十年庚辰廿九改妻四
号梁心院頼誉息光童子

天明五年乙巳十二十改寿四
号始建院體誉摂元居士

全勝

生子
寛政三年辛亥十二六八部屋住為大御番
享和元年辛酉十二
五百石 無小物成高入
四印幡助跡式高一千石 惣領 香取助 九斗五石
四印幡助跡式高一千石 常州河内助二男 三郎 三百俵 三男 四郎 彼助 二百俵
四新治助 領六十石 二男

山前 五郎右衛門

女

生江戸
元禄五年壬申七月二晦日於前田御屋敷御老中列坐大名預加賀守
傳之
同十五年壬午八月二日遊再至夜更依不慎小著物過差
宝保元年辛酉十二月十二致仕

山角吉十郎

寅
壽命

正徳二年壬申生江戸
寛保元年辛酉十二十二歳
叔倉佐渡守傳之為中書侍永井豊物干部
同三年癸亥三廿三家督御禮銀馬代
五百石菊間御縁側御老中列座

盛繁
生相如

山角次郎右衛門

天正十九年辛卯與政長同
大神君別賜五百石拳仕
台徳公為大御番指揮冊後免
寛永十一年甲戌二八歿

直昌

山角内記　次郎右衛門

慶長九年甲辰生江戸
寛永二年丙寅部屋住為大御番松平大隅守
賜二百俵同十年癸酉並加二百石九賜四百五

国立国会図書館　タイトル『本朝武家諸姓分脈系図』　請求記号 838-116
ガラス使用

同十一年戊辰又頒目録
同十四年丁丑正十九廿三百七十五石並加賜上納

某　山角弥十郎
生没
寛永年大御番松平大隅守組
移擬兵衛嫡

勝長　山角次郎右衛門
女

生没
寛永十四年丁丑晦日二百七十五石
同二十年癸未四十四歳大御番大久保右京亮組
寛文十二年壬
延宝七年己未　歿　為御宝蔵番頭

景長　山角左兵衛
女

次郎右衛門

生江戸
寛文二年高十一万十九
二百俵延宝七年未七九歳
阿部豊後守傳之後為元方侍従
元禄十年十五三廿九依不相應小普請
不及遠慮也為小普請村越伊予守組
同十三年庚辰 致

勝繁 山角内記
女

生江戸
寛文元年十二月朔日 御目見 元禄六年癸酉十二月九日

勝定 山角万之助 内記
女

生江戸
享保十五年庚戌九二歳
松平伊予守傳之為小普請

為大御番賜二百俵大津出羽守組
元禄十三年庚辰十二月九歳
阿部豊後守傳之同十四年辛巳
大津同出羽守組 宝永元年甲申六十
享保十五年庚戌六八致

元文　年　　為元方御納戸
寛保三年庚戌四十八為御小納戸同年六十九所居
大納言公御小納戸明和七年庚寅五十四為二丸御留守居

勝良　　山角左兵衛　内記　次郎右衛門
廿

生江戸
宝暦十二年壬午九廿八部屋住為御書院番
賜三百俵
安永　年　　跡目二百七十五石

山角鎌太郎
廿

生江戸
文化八年辛未三廿七家督為中奥
二百七十五石無之高目録ニ而ハ御役料ハ愛甲郎ニ百七十名ニ而
列名左ニ

守次　山角　喜兵衛

妻

元禄十五年九月廿四日寺西閑哲

横田氏女　同年十六日生　新規開山

百箇日逆修　宝永元年十二月廿八日

三回忌　享保十三年戊申年二月廿四日

戒次　山角勝十郎

妻　榊原六左衛門政信女

宝永七年庚寅十二月廿八日

当寺求院殿頂誉道山居士

寺西閑哲

国立国会図書館　タイトル『本朝武家諸姓分脈系図』　請求記号 838-116

ガラス使用

内閣文庫

女子

享保四年乙亥八月廿五日
道雄居士

盛雄　山角平九郎
實同姓四郎左エ門三男
母同

妻　喜兵衛

寿西迎寺　当住職第三

物語四年癸亥正月廿五日
智現信士　寿内

女子

享保四年己亥十二月廿日
傳心為中禅定

寿西迎寺

宝暦五年乙亥五十三回忌
当住職水着一閑道澄代

元禄四年辛未三月廿六日
当院殿雲着智安

寿西迎寺

永次　山角勝右エ門
母　寿

明和五年戊子二月廿九日
当院殿遊着不知士都

国立国会図書館　タイトル『本朝武家諸姓分脈系図』　請求記号 838-116
ガラス使用

宝暦五年乙亥　勝田五百石
同十七年丁卯七月廿五日致仕　寿宮
同時襲先跡拝領　蒼岐雲生

女子　山下奥帥

重形　宝暦七年丁丑六十四又薨寺
与厚善院慈童良瑞童子
宝暦九年己卯六十六又泰岡寺
与夏雲高映童子

重形

盛房　山角鉄蔵　喜兵衛
英羽姓四郎兵衛　号
重毋

宝暦十年庚辰十　勝田五百石
為小普請
安永七戊戌四十二致仕　寿西迎寺
与涼心院殿叡誉静雲居士

盛富　山角鉄蔵　勝十郎
実同姓四郎兵衛　号
実母

生卒
安永七戊戌　勝田五百石
為小普請
大明　年
生病許為小普請朝比奈阿波守組
為宅先御書院番

盛之　山角政吉　四

文化十四年丁丑九月廿日叙爵
正五位　無官無位ニシテ叙爵ス
同筑波郡八幡郷ニ住ス
同豊田郡ニ住ス

勝原姓
山角　本國相模　紋

定吉　山角半太郎　妻某氏日像

永禄十二年己巳生相州
幼仕北條陸奥守氏照天正十八年庚寅豊臣秀吉破
相州小田原時氏政氏照就死定吉獨従氏照而氏照死七
定吉居側壽千乱定堂令狼籍其際定吉懐氏照首
進捧使井伊直政抽忠康政之前而欲自殺井伊直政
止自殺吉
大神君乃感勇並旦十人令勿自殺暫數日定吉自断髪

国立国会図書館　タイトル『本朝武家諸姓分脈系図』　請求記号 838-116
ガラス使用

為氏照之黄泉破棄宝殘行葬式至高野山
大神尼盛之次井伊直政有　音而葬仕於武州多西郡勝
俗已千五十九
寛永十五年戊寅六十四致年七十葬常
号壽仙院殿長巖半樂居士

勝茂　山角市藏　藤兵衛

實　北條家臣修善寺
大神尼勝之武州忠中寺多西三百石　鉄木又衛門吉勝男

天正十六年戊子生相州
慶長六年辛丑招拜
台徳公同十九年甲寅大坂役偏松平越中守供奉
同二十年乙卯大坂再乱偏内藤若狭守組供奉天王寺
口而得首寛永九年壬申十二致年四十五葬同寺

定重　山角助兵衛

女

号覺成院殿智海日誉居士

定勝　山角清之助　蹟兵衛得

女

生江戸
元和七年辛酉十
台徳公寛永九年壬申部屋住為御
賜三百俵同年十
延宝四年丙辰五月二
号光浄院殿日心

定　山角清兵衛

廿

国立国会図書館　タイトル『本朝武家諸姓分脈系図』　請求記号 838-116

ガラス使用

生江戸
万治二年七月九日卒 部屋住為御小性組小出越中守組
同四年賜三百俵延宝四年辰七十二跡目四百石外
知二百石於同姓又右衛門
貞享五年辰四五歳寿四十八寺同寺
号清心院殿浄照日明居士

山角又右衛門

女同

生江戸
延宝四年辰七十二分知

元禄十四年辰三十二歳寺
号宝性院三蓋日阿法山居士

山角又十郎

女

生江戸
元禄十四年辰七九跡目菊門
傳之為小普請大久保玄蕃頭組
宝永四年丁亥七九歳寺
号涼樹院清蓋義宝居士

寿常運寺

国立国会図書館　タイトル『本朝武家諸姓分脈系図』　請求記号 838-116
ガラス使用

山角又吉

女子

生没
宝永四年丁亥十二月廿日

女子
早世

御書院番
石河七兵衛
利久妻

山角清三郎

藤兵衛

生没
貞享五年戊辰七十二歳
加賀守傳ヶ為小普請
元禄元年戊辰十二廿三従日御褒美銀馬代
為御小性組後備品摂津守供時等仕六年癸丑六五歳
葬同寺号常照院殿大空日洞居士

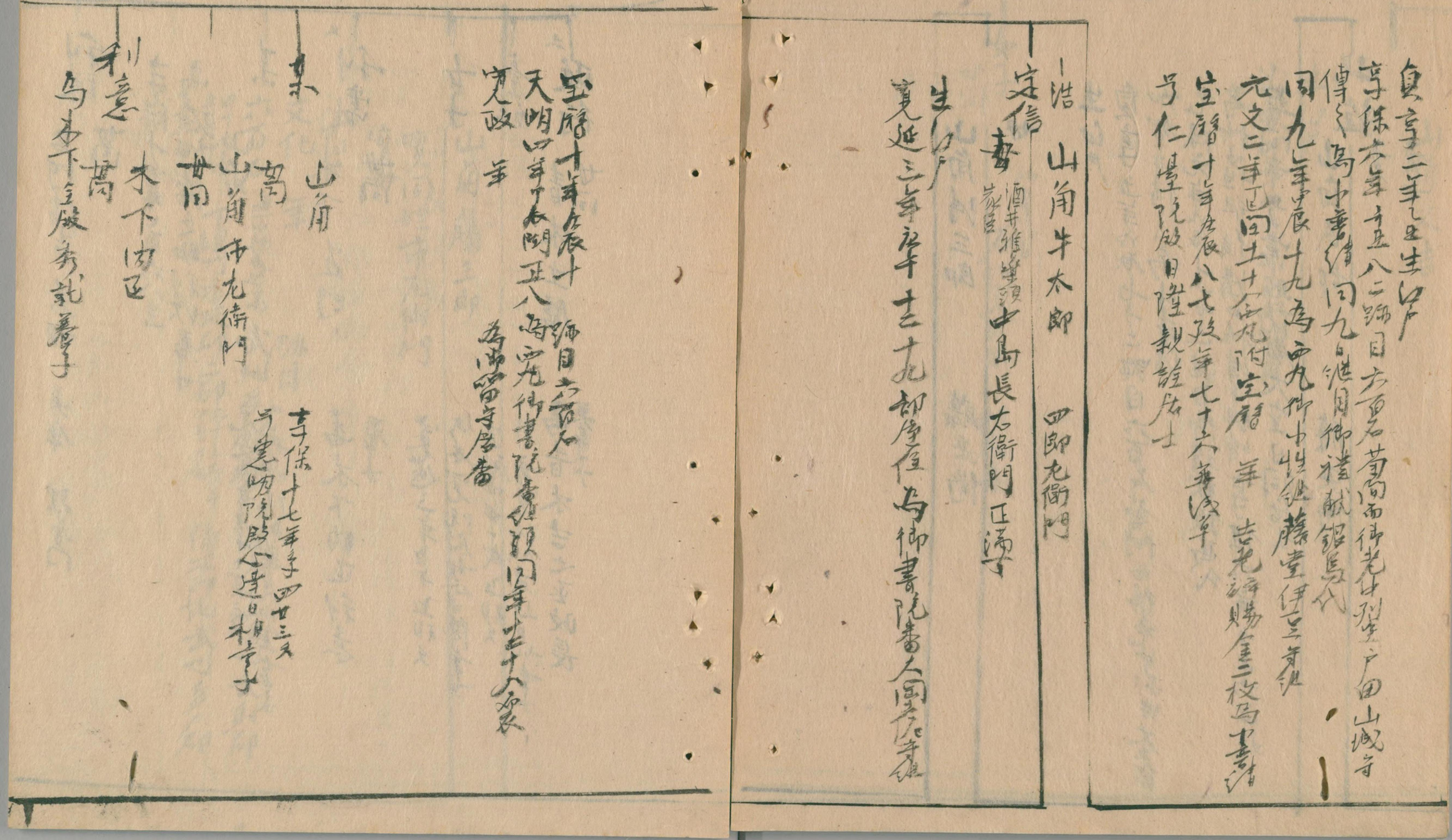
女子
早世

山角民部

藤兵衛

国立国会図書館　タイトル『本朝武家諸姓分脈系図』　請求記号 838-116

ガラス使用



利隆 石河傳吉 兵部
　　　

女子

岡田左太郎

元平 安見藤藏 助九郎

妻 酒井雅樂中信濃守家臣 長谷川正治女

為安見七之助道香養子

妻

山角甚四郎

妻

生沢ノ

山角孫四郎

妻

生ル

寛文三年癸卯十一十九新規

組頭三百俵役生涯為本要請同卯十月没

元禄十四年巳

及

元禄十四年辛巳七九歳
但馬守傳之為小姓組
同十七年甲申

改

山角小兵衛

寅

寅

生沙門
宝永元年甲申四月廿日三百俵

山角

定長　山角文右衛門
　生利
慶長二十年為大御番賜二百石植村帯刀組時
寛永十年登西並加二百石合賜四百石
同十二年乙亥五七致

定宗　山角文三郎　文右衛門
　生利
寛永　年　　部屋住為大御番松平綏殿頭組入場二百俵
同十二年乙亥晦日　四百石延宝二年寅六十五歳病
元禄九年丙子閏十二月廿五日　卒
号一行院栄窓哲浦居士　　葬常栄山心法寺

山角次郎兵衛

女

寛永　年　新規為小十人組同九年三月賜二百俵十石
後為御納戸頭　寛永十年七月廿三日　致
天和二年七月廿三日　致
号唯信院尸一道居士

正利　女

生沼

山角彪助　権亜　金左衛門

天和二年戌七十二歳同二百俵為小普請
貞享四年丁卯二十三為大御番　水野周防守組
元禄六年癸酉五十九為御納戸頭　後告病為小普請
采女　津同防守組同十六年癸未九十七日　致
号玄相居士

近方　山角彪兵衛

寅

寅女

妻

生江戸
元禄十六年癸未十一月廿七歳　目二百俵若門而御先手
列坐小筐原仕渡辺傳之為小普請　采女　津同防守組
宝永元年甲申五月廿五為大御番　池田帯刀組

享保十七子年四五歳
号永忠院巨山勇徹居士

近房　山角六十郎　四谷鬼横町　寺蓑

妻　御書院番大河原源五左衛門娘　有直男
享女　平岩五左衛門　正勝女

生母　享保七寅年三月廿八日
享保十二年丁未七五歳　同二百俵菊間御先手列
左近将監と為小普請　木造殿助支配
同年十月廿五歳
号相善院冷山安平智観居士
寿

近直　山角金三郎　次弟家

妻　大河原源五左衛門　有直五男
一橋勤仕　少君付内　女

生母
享保十二年丁未十二月廿七日　同二百俵菊間御先手列
松平伊賀守傳之為小普請　木造殿助支配
寛政元酉年　明和九年辰年卒
号勝雲院覚山通徹居士

国立国会図書館　タイトル『本朝武家諸姓分脈系図』　請求記号 838-116
ガラス使用

山角次郎兵衛

女
女小倉伴内

生ル子

天明二年辛寅三廿三 歿
号慈心院眼明淨入居士

女子

武丈 山角岩次郎
婚

女子

武丈 山角岩次郎
實父

妻
生ル子
天明二年壬寅八七 歿月二百俵蓟而御老中列坐久世
大和守傳之為小普請川勝権之助工配
寛政二年庚戌四廿七為大納言岡部出羽守組
文政元 寅九三
号慈昌院淨真頓入居士 死 同寺葬

女子

山角紫藏

寛根来之高二男
寛女 孫四女

生江戸
文政二年庚辰六二歳

女子 三 養子嫁

女子

山角彦太夫 隊吏郎 六郎右衛門

定知
女

生江戸
寛文二年壬寅十一月十九日
場二百俵負高元禄七年甲戌七九俵四人扶
傳之同十二年己卯三月廿二日御弓矢鑓奉行
同十四年辛巳従来一俵不足
享保七年壬寅七月廿五日病心法寺号浄心院清誉覚道居士
万治二年己亥正月八日寿国寺
号明屋忠光法尼

元禄十年丁丑二十五日寿国寺
号教知院真誉梅窓大姉

女子

定恒　山角彦大夫　文右衛門　致仕休前

女子

妻　奥田區荻生方養法眼篤女

寛文十一年辛亥出生　元禄六年癸酉十二月廿日見

天明二年壬寅六月廿日　元禄六年癸酉十二月廿日

為大御番三枚能登守殿賜二百俵

享保七年壬寅十四歳同日罷出菊間御光中望戸田山城守殿

同十六年辛亥七十四以病辞為中善庵

同廿一年辰四月七日致仕号休翁　元文三年午五十一歳

等心法寺号顕光院歓明蒼清白居士

元禄十三年庚辰二月八日　善同寺

号蓮知池春童子

定直　山角平左衛門

實

實女

元禄十一年戊寅四月七日　元文三年午十二月廿二日

為小普請材木修理之

同五年申四十歳為大御番

延享元年甲子四月致仕

国立国会図書館　タイトル『本朝武家諸姓分脈系図』　請求記号 838-116

ガラス使用

定周　山角益之助
寅
寅女　妻

享保十二年丁未生江戸
延享元年甲子四四家督四百石菊間番
傳之為小普請大目付
宝暦二年壬申九十為大和番久留島信濃守組
等永八年乙丑十三歳心法寺
守了岸院形誉自閑居士

女子
卅

寛保二年戌午賀島寺
九月初詣寺

文右衛門

定好　山角文太郎
好
生江戸
等永八年乙丑
跡目買
頼母

山田永次郎
卅
十右衛門

大沖藩山田道平勝　養子

定保　山角式部　如

生江戸
文化二年乙丑十二月廿日
同陶綾鄙養
同六年己巳十二月為大沖藩十番

方御先御門

無役高廿俵　村大住御二丸詰

山角

吉次　山前権兵衛

生相州

台徳公大御番賜三百俵
寛永十年亡国内藤市正組時加二百石九賜五百石
万治二年巳亥十九九月
号詳菴院殿善誉宗雲大居士

寿四拾壹歳　涼雲山西迎寺

女

山前兵二郎　四郎兵衛　四郎九衛門

生江戸
寛永十年酉年御部屋住為大御番内藤市正組
同十年酉二九日初賜二百俵

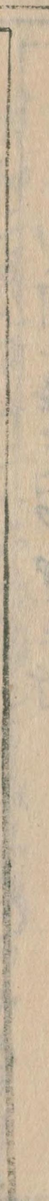
国立国会図書館　タイトル『本朝武家諸姓分脈系図』　請求記号 838-116
ガラス使用

万治二年七月廿五日五百石寛文二年二月九日
大御番組頭同年十二月廿二日御目見
延宝五年十月九日
母大相院殿 銕蔵 微清 同水右衛

元禄十年己丑父遠流之時御預中川佐渡守
同十二年卯十四才又同
宝永二年酉七廿七卿目二百俵菊岡御老中列
井上河内守傳之為小普請
同四年丁亥四七為大御番戸田右京亮
元文四年未五廿九没年
子圓淨院殿覺譽靈真居士

大久保四郎右衛門
為大久保九兵衛忠逵養子
榊原源兵衛
妻 淨兵衛女子母

女子
嘉川勝藤兵衛廣能妻
宝永四年丁亥十二廿二没



久浮山角
實同雄嘉兵衛盛雄男
室女
壽養父主能女

享保四年己亥五月廿
同九年甲辰九月病養于元文四年未九五歳
二百俵菊間御老中列従時疱瘡之為小普請
佐野善左衛門忠通同五年庚申四月二為
留守番

国立国会図書館　タイトル『本朝武家諸姓分脈系図』　請求記号 838-116
ガラス使用

妻ハ中書傳之延享元年甲子五九日病終為中書傳
打下加矢衛玉亂寛延三年午八十為水野肥前守組
明和二年乙酉六十一終法名妙絲
同年十一月八日改葬西迎寺
号身常院殿前妻無二居士

女子
母

妻子久住妻

山前藤左衛門四郎兵衛
久邦
實同姓喜兵衛盛雕ノ男
實母

妻子

生母
宝暦十三年癸未五十一養子
明和二年乙酉十二月六日病日二百俵賜而御先中絶
阿部伊予守傳之為中書付高力式部配
同五年戊子正十九為大御番堀大膳亮組
安永六年丁酉八十六日病為中書詰長谷川利十郎
天明七年丁未三十養子致仕

妻

久林
母子
妻

山前貞之亟
明和八年辛卯六十一致仕
号悟相院殿教誉智感居士
権兵衛

五

国立国会図書館　タイトル『本朝武家諸姓分脈系図』　請求記号 838-116
ガラス使用

生[illegible]宝暦十一年辛巳生
天明七年丁未三十七歳智二百俵菊岡内匠中判
鳥居甲斐守傳之為小普請長谷川平十郎子孫
寛政二年庚戌四月七為大御番岡部出羽守組

山角鉄蔵
書
為同姓喜兵衛

実父子

山角金之丞

母伊庭惠兵衛　女

天明五年乙巳正月生

国立国会図書館　タイトル『本朝武家諸姓分脈系図』 請求記号 838-116
ガラス使用

838
297
116

国立国会図書館　　タイトル『本朝武家諸姓分脈系図』　請求記号 838-116

ガラス使用

国立国会図書館　　タイトル『本朝武家諸姓分脈系図』　請求記号 838-116

ガラス使用